



観光・飲食部会特集

# サイバースペースを 活かす観光

「バーチャル名護屋城ガイドツアー」に参加

## ポケモンGOが街に人を呼ぶ



観光・飲食部会 部長  
（株）浮月 代表取締役社長  
久保田 隆さん

スマートフォン向けゲームアプリ「ポケモンGO」の日本での配信が7月22日に始まりました。配信開始から1週間足らずでゲームのアプリをダウンロードした人は3千万人を超えたと推測されています。

ポケモンGOは、スマートフォンを手にして街を歩くと、突然ポケットモンスター（ポケモン）が画面に映り込み、ボールをぶつけてそれを捕まえるゲームです。

静岡市でも、スマートフォンを片手に街を歩きながら、ポケモンを収集する姿をよく見かけます。そして、浮月楼の玄関あたりにもポケモンがいるようですし、駿府城公園にもプレイヤーが集まっています。

このゲームを可能にしたのは、AR（Augmented Reality・拡張現実）という技術です。VR（バーチャル・リアリティ）（仮想現実）技術が仮想世界の映像のみを表示・視聴するのに対して、AR技術は現実世界の映像と仮想世界の

映像を重ねあわせたところに特長があります。

ポケモンGOの場合、Googleマップをベースにした全地球測位システム（GPS）による位置情報技術とスマートフォン内蔵のカメラを使った技術が使われているそうです。

いずれにしても、AR技術によって現実世界と仮想世界に接点ができ、ゲームは、家の外に出て、友達と健康的に楽しむものになりました。

このように、サイバースペースを現実社会と結びつけることで、人が街に出るようになったわけですね。

自民党は7月22日、IT戦略特命委員会を開き、ポケモンGOについて、観光地への誘客につなげて地方創生に活用するよう、任天堂やゲームを配信するナイアンティック社に協力を求める考えを示しました。

そこで今回の観光・飲食部会特集では、サイバースペースを活かす観光について取材しました。たとえば、駿府城の天守閣が失われていても、AR技術を使うことで、家康公が築城した当時の駿府城の姿をタブレット端末に表示することができるようになりました。このAR技術を、観光に活用せずにはいられません。